

## 第8回 イノベーション教育学会 プログラム・要旨集

### 「価値創造を問い直すための新しい教育」 ～with コロナにおけるイノベーション教育とは？～

日時：2021年2月27日（土）～28日（日）

開催形式：オンライン（Zoom）

※Zoomのリンクは参加登録後に連絡

主催：イノベーション教育学会

主管：神戸大学バリュースクール

イノベーション教育学会では、社会の変革を牽引する人材を輩出するための教育のコンセプトの立案や手法の開発に関わる研究を蓄積することに大きく貢献してきました。最近、イノベーション教育は大学教育だけでなく、中学校・高等学校などでの新しい教育として取り入れられています。それだけでなく、企業における新事業開発や人材育成などの基礎的な教育となりつつあり、社会全体における価値創造教育となりつつあります。未来社会を担う新たな創造を生み出す人材を輩出するためには、

イノベーション教育にも進化・発展が期待されています。また、企業等におけるイノベーション人材育成においても同様です。現在のコロナ禍においては、大学で対面講義が当たり前でなくなり、従来の知識伝達的な教育をオンデマンド講義などで代替することが一般化しつつあるように、「教育」そのものも大きく変化している状態です。「価値」や「イノベーション」がややもすれば“バズワード”となってしまうがちな現在において、イノベーション教育に関わっている教員たちは価値創造教育のさらなる深化を求められています。今年度の年次大会では、「価値創造」とはなにか、新たな価値を生み出す人材を育てるための教育とはなにか、コロナ禍における教育機関の役割とは何か等を考えていくことを目的とします。

開催責任者  
イノベーション教育学会幹事  
鶴田宏樹・祇園景子  
(神戸大学バリュースクール)

# ■ 全体プログラム

## 1日目 (2/27)

9時 Zoomオープン

**10:00~10:15** オープニング

主催者挨拶 神戸大学 V.School スクール長 國部克彦 教

来賓挨拶 文部科学省 産学連携・地域支援課 課長 齊藤卓也 氏

**10:15~11:00** 基調講演「価値創造のためのこれからの教育とは」 東京大学 鈴木寛 教授

**11:00~12:30** パネルディスカッション「価値創造のための教育とは何か、教育システムはどうあるべきか」

パネラー（敬称略）：鈴木寛（東京大学）、島岡未来子（早稲田大学）、白坂成功（慶應義塾大学）、本江正茂（東北大学）、相田亮（パナソニック）

モデレーター：鶴田宏樹（神戸大学）

**12:30~13:30** 休憩（昼食）

**13:30~15:00** ポスター発表 24件（Zoomブレイクアウトルーム）

**15:00~17:30** ワークショップ：新しいワークショップのかたち「未来の当たり前をデザインする」

堀井秀之（i.school）

## 2日目 (2/28)

**9:00~12:00** 口頭発表（教育手法開発、事例紹介）：10分発表+質疑5分 10件

**13:00~15:00** パネルディスカッション「高専におけるイノベーション教育」

パネラー（敬称略）：大蔵峰樹（神山まると高等専門学校（仮称：設立準備中） 学校長候補 / ZOZOテクノロジーズ元CTO）、入江英也（佐世保工業高等専門学校 EDGEキャリアセンター准教授 / （株）ユウシステム代表取締役社長）、戸谷順信（国立高等専門学校機構 国際交流センター教授 / 副センター長）

モデレーター：谷川 徹（e.lab代表）

**15:00~15:30**

優秀ポスター発表者賞授与

次年度開催校から挨拶：堀井秀之（i.school）

## ■ ポスター発表 (2/27 14:00~16:00)

	1: 14:00~14:40	2: 14:45~15:25	3: 15:30~16:00
ブレイクアウトルームA	A-1 ワークショップにおける発話の可視化とアンケート (i.school・瀧澤知樹)	A-2 自分で考え自分で決めて行動する学生へと変態する、武者修行プログラムについて (株式会社旅武者・黒澤由希)	A-3 オンラインと対面による中学生を対象にしたデザイン思考ワークショップ効果の比較 (徳島大学・毛笠龍之介)
ブレイクアウトルームB	B-1 工学部におけるデザイン講義の立ち上げとその評価手法についての検討 (工学院大学・見崎大悟)	B-2 介護現場観察によるプロダクトデザインにおけるデザイナーのリフレクション手法の提案 (東京工業大学・田岡祐樹)	B-3 エンジニアリングデザインプロジェクト: 2021年オンライン化の学び (東京工業大学・田岡祐樹)
ブレイクアウトルームC	C-1 チームワーク可視化技術を活用した課長研修の結果とその考察 (i.school・彭思雄)	C-2 最先端デジタル・ビジネスの創造型学習—専門制カレッジの挑戦 (東京ビジネス外語カレッジ (TBL)・居山由彦)	C-3 オンラインによる起業家教育の実践報告 (早稲田大学/神奈川県立保健福祉大学・島岡未来子)
ブレイクアウトルームD	D-1 大学における産学官連携イノベーション教育プログラム運営体制の考察—東北大学大学院工学研究科フィールドデザインセンターの事例— (合同会社プロジェクトノード・山田哲也)	D-2 理工系研究室における発明者としての学生の権利付与に関する実態 (東北大学・武田浩太郎)	D-3 AEWS (Artist Experience Workshop) の幸福度に関する実践的研究 (同志社大学大学院・村井拓人)
ブレイクアウトルームE	E-1 教師のクリエイティブマインドセット (武蔵野美術大学・諏訪正太郎)	E-2 音楽 (リズム) を使ったイノベーション創出のための協働関係作り (BEAT of SUCCESS・山原すすむ)	E-3 アート思考によるイノベーション教育の可能性 (早稲田大学・山原すすむ)
ブレイクアウトルームF	F-1 学生のキャリア教育におけるNPOの介入価値 (特定非営利活動法人STeLA Japan / 英ロイヤルカレッジオブアート・鈴木友里恵)	F-2 大学スタートアップスタジオ「U-tera」の設置とその取り組み (徳島大学・北岡和義)	F-3 ②ものづくりを行う演習系授業履修学生のオンラインにおける影響について (徳島大学・森口茉莉亜)
ブレイクアウトルームG	G-1 産学連携プロジェクトにおける非対面でのアイデア創出手法に関する一考察 (大阪工業大学・横山 広充)	G-2 医学部教育とイノベーション教育 (滋賀医科大学・松浦昌宏)	G-3 工業分野で即戦力として活躍できる人材育成法の検討 (徳島大学・亀井克一郎)
ブレイクアウトルームH	H-1 レジリエント社会の構築を牽引する起業家精神育成オンラインプログラムの開発 (神戸大学・祇園景子)	H-2 オピニオンリーダーのワークショップによる振る舞いの調査 (徳島大学・油井毅)	

※発表の共著者については、要旨のページを参照してください (適時更新されます)。

## ■ 口頭発表（2/28 9:00～12:00）

	発表時間	タイトル	名前	所属
O-1	9:00 - 9:15	大学スタートアップスタジオ「U-tera」の設置とその取り組み	北岡和義	徳島大学
O-2	9:15 - 9:30	AEWS（Artist Experience Workshop）の幸福度に関する実践的研究	村井拓人	同志社大学大学院
O-3	9:30 - 9:45	オンラインによる起業家教育の実践報告	島岡未来子	早稲田大学/神奈川県立保健福祉大学
O-4	9:45 - 10:00	アート思考によるイノベーション教育の可能性	山原すすむ	早稲田大学
O-5	10:00 - 10:15	教師のクリエイティブマインドセット	諏訪正太郎	武蔵野美術大学
休憩				
O-6	10:30 - 10:45	エンジニアリングデザインプロジェクト：2021年オンライン化の学び	田岡祐樹	東京工業大学
O-7	10:45 - 11:00	レジリエント社会の構築を牽引する起業家精神育成オンラインプログラムの開発	祇園景子	神戸大学
O-8	11:00 - 11:15	工学部におけるデザイン講義の立ち上げとその評価手法についての検討	見崎大悟	工学院大学
O-9	11:15 - 11:30	ワークショップにおける発話の可視化とアンケート	瀧澤知樹	i.school
O-10	11:30 - 11:45	オンラインで進展する高大接続の可能性と課題：全国高校生社会イノベーション選手権（イノチャン）のオンライン化で得た教訓	小松崎俊作	東京大学大学院

※発表の共著者については、要旨のページを参照してください（適時更新されます）。

## ■ 発表要旨（共同発表は随時追加します）

A-1 O-9	ワークショップにおける発話の可視化とアンケート	瀧澤知樹	i.school
	イノベーション教育を実践しているi.schoolにおけるオンラインワークショップの様子を録音録画し、ワークショップの様子を可視化できるか検討を行った。録画の音声からは発話パターンを、画像からは笑顔度を可視化し、それぞれアンケート調査の結果との関連性を検討した。		
B-1 O-8	工学部におけるデザイン講義の立ち上げとその評価手法についての検討	見崎大悟	工学院大学
	エンジニアリング教育を実践するにあたって、Stanford大学ME101の講義を参考にして、工学部機械系学科に、5年前に新設したデザイン科目についての、総括および評価手法の提案と2020年度に実施したオンライン化での課題について発表をおこなう。		
C-1	チームワーク可視化技術を活用した課長研修の結果とその考察	彭思雄	i.school
	民間大企業の課長5人に対して行なったリーダーシップ研修の結果を考察する。研修では、リモートワークショップの実施、ワークショップにおけるチームワークの可視化、アンケートの実施、これらを活用したフィードバックの実施が行われた。		
D-1	大学における産学官連携イノベーション教育プログラム運営体制の考察 — 東北大学大学院工学研究科フィールドデザインセンターの事例 —	山田哲也	合同会社プロジェクトノード
	大学において、科目外で行われるイノベーション人材育成プログラムの運営体制には様々な制約がある。本発表では、産学官連携イノベーション人材育成プログラムとして、大学と企業との間で結ばれた契約にもとづいて行われる教育プロジェクトの運営を、専任教員と地元企業やクリエイタ等の外注スタッフとの協働で行う、東北大学大学院工学研究科フィールドデザインセンターの実践事例について報告する。		
D-2	理工系研究室における発明者としての学生の権利付与に関する実態	武田浩太郎、祇園景子、加藤知愛、池ノ上芳彰、長坂徹也	東北大学
	学生発明の取扱いに関する定型的規定はない中で、発明における学生の発明者としての地位の付与は、研究室PIの運用方針に委ねられていると思われる。本発表では、理工系研究室のPIへのインタビューを元に、その運用方針の実態について報告する。		
F-1	学生のキャリア教育におけるNPOの介在価値	鈴木友里恵	特定非営利活動法人STeLA Japan / 英ロイヤルカレッジオブアート
	STeLA Japanでは2020年にコロナ禍での理系学生のキャリア教育をテーマにPwC Japan 合同会社、PwCあらた有限監査法人与1Dayのキャリア教育イベントの開発・運営を行なった。企業と学生の間にはNPOが介在することで達成した就活色を省いたキャリア教育の開発プロセスを、英ロイヤルカレッジオブアートのサービスデザインの手法と照らし合わせ、比較・発表したい。また会場に集まる大学関係者にも学生のキャリアパスを広げる選択肢としての、NPOの活用メリットをまとめ啓蒙したい。		
G-1	産学連携プロジェクトにおける非対面でのアイデア創出手法に関する一考察	横山広充	大阪工業大学
	インターンシップを兼ねた産学連携プロジェクトにてリモートワーク推奨の状況下でリーダーシップを取っている3年生が学生主体でどのようにデザイン思考を用いたグループワークを実施したかについて3グループの事例をもとに考察する。		

H-1 O-7	レジリエント社会の構築を牽引する起業家精神育成 オンラインプログラムの開発	祇園景子	神戸大学
	東日本大震災や阪神・淡路大震災などについて学び、防災・減災に資する新規事業を提案する教育プログラムのオンライン版を開発・実施した。本プログラムのコンテンツと受講生の成果物について紹介する。		
A-2	自分で考え自分で決めて行動する学生へと変態 する、武者修行プログラムについて	黒澤由希	株式会社旅武者
	弊社は大学生向けにリアルなビジネスを経験できるインターンシッププログラムを開催しております。昨年まではベトナムで実施し、大学生向け海外インターンシッププログラムとして国内参加者No.1の実績を作らせていただきました。昨年春からは国内とオンラインに場所を変えて実施しております。このプログラムの目的は、先の見えない不確かな中でも自ら考え行動し先を切り拓く自走式エンジン◎の搭載です。プログラムを通じ参加者がどのように変化し、その後の未来はどうなっているのかを発表させていただきます。		
B-2	介護現場観察によるプロダクトデザインにおけるデザイナーの リフレクション手法の提案	田岡祐樹	東京工業大学
	デザイナーの思考及び思考に影響を与える要因を日々記録し、デザイナーのリフレクションを支援する記録形式を提案する。著者の1名が、介護施設向けの製品設計において既存研究に基づく記録形式を用いた上で、記録形式を改訂した。		
B-3 O-6	エンジニアリングデザインプロジェクト：2021年オン ライン化の学び	田岡祐樹	東京工業大学
	エンジニアリングデザインプロジェクトは、協力企業と策定したテーマに基づき、チームで課題を発見し、解決手法をエンジニアリングの手法を用いてプロトタイプで提案する授業である。本研究では、2021年度のオンライン化に伴う課題と成果について報告する。		
C-2	最先端デジタル・ビジネスの創造型学習—専門制 カレッジの挑戦	居山由彦 並河克彦	東京ビジネス外語カレッジ (TBL)
	デジタル技術と創造的アイデアでいかに暮らしを豊かにするか。人類が立ち向かうべき地球規模の課題解決にいかに関与できるか。パートナー企業の最先端の取り組みをヒントに「未来をデザインする」若者を育てます。4月開講「デジタル・ビジネスコース」は専門制カレッジの新しいチャレンジです。		
E-1 O-5	教師のクリエイティブマインドセット	諏訪正太郎	武蔵野美術大学
	イノベーションに対する期待が教育界でも高まり、クリエイティブな教育が求められている。しかし学校教育の現場は、創造的な教育を推進できる十分な状況ではない。子どもの創造性を育成する為に教師自身が創造的な教師になるためのワークショップを行った。		
E-2	音楽（リズム）を使ったイノベーション創出のための協 働関係作り	山原すすむ 橋田“ベッカー” 正人	BEAT of SUCCESS
	最近の研究では、音楽によって脳が活性化すると言われています。特にリズムによる協働体験はイノベーション創出の基礎となる安心安全な関係作りに役立ちますが、「トレーニングビート」によるリズムを使ったチーム作りの概要をご紹介します。ご体験頂きます。		

E-3	アート思考によるイノベーション教育の可能性	山原すすむ 北桂樹	早稲田大学
O-4	最近、話題のアート思考はイノベーション教育にどのような効果があるのでしょうか。2019年から主に企業研修で行ってきたアート思考セミナーの概要と受講生にどのような気付きや学びがあったかを報告します。		
F-2	大学スタートアップスタジオ「U-tera」の設置とその取り組み	北岡和義	徳島大学
O-1	学生発ベンチャーはここ数年でその数を順調に伸ばしているが、それを支える大学の仕組みは未整備な点も多い。徳島大学では、令和元年度よりスタートアップスタジオ「U-tera（ユーテラ）」を設置し、志を持つ学生に対する事業創造の伴走支援を実施している。その設置の狙いと取り組みについて発表を行う。		
G-2	医学部教育とイノベーション教育	松浦昌宏	滋賀医科大学
	平成26年度のEDGE採択以来、アントレプレナーシップ教育と並行してイノベーション教育に取り組んできた。昨年の本学会で報告したJST社会還元加速プログラム（SCORE）の進展状況および本来の医学教育との連携について最近の動きを報告する。		
H-2	オピニオンリーダーのワークショップによる振る舞いの調査	油井毅	徳島大学
	発話量の検知サービスを利用し、オンライン、オフラインのデザイン思考ワークショップでのチームメンバーの発話量やオピニオンリーダーの振る舞いなどを評価する。		
H-3	オンラインと対面による中学生を対象にしたデザイン思考ワークショップ効果の比較	毛笠龍之介	徳島大学
	今年度、企業と連携し、中学生に対してオンラインデザイン思考ワークショップを開催した。昨年度は同様の内容で対面にて実施。両年ともにイノベーション創出で求められるスキル19項目のアンケート調査を行っており、能力伸長に関する比較分析を行う。		
C-3	オンラインによる起業家教育の実践報告	島岡未来子	早稲田大学/神奈川県立保健福祉大学
O-3	早稲田大学WASED-EDGE 人材育成プログラムでは、2020年度に複数のオンラインによる起業家教育プログラムを実施した。その中でも、本庄市を舞台とした5大学共同プログラム、富山県との「新規事業創造インターンシップ」、多摩美術大学との「わせたま」、滋賀医科大学との「医療機器特化型プログラム」を取り上げ、その実践方法、成果、課題を受講生からのアンケート結果などから抽出する。		
D-3	AEWS（Artist Experience Workshop）の幸福度に関する実践的研究	村井拓人	同志社大学大学院
O-2	本研究は、アーティストの暗黙知「ATT（Art Thinking Theory）」の発見とともに、それを基に開発した「AEWS（Artist Experience Workshop）」プログラム参加者の幸福度、創造性、行動変容度向上効果についてt検定を用いて分析した。		

F-3	② ものづくりを行う演習系授業履修学生のオンラインにおける影響について	森口 茉梨亜	徳島大学
	遠隔システムを利用した授業が行われる中で、特にものづくりを行う演習系授業の履修学生にアンケート調査を行い、新型コロナウイルスの影響による生活や気持ち等の変化や授業に取り組む意識について分析した結果を報告する。		
G-3	工業分野で即戦力として活躍できる人材育成法の検討	亀井克一郎	徳島大学
	工業分野で大学卒業後（学部4年制卒）現場就職した際の即時適応能力（技術力）とその数年後を見越した管理監督能力（運営能力）を考慮した人材育成プログラム「マイスター制度」の立ち上げに至る経緯と結果、そして今後への課題、展望について。		
O-10	オンラインで進展する高大接続の可能性と課題：全国高校生社会イノベーション選手権（イノチャン）のオンライン化で得た教訓	小松崎俊作	東京大学大学院
	オンラインで実施した第3回イノチャンには過去最も幅広い参加者が集まった。アイデアの質、大会実施・参加障壁の変化、データ収集と分析等の観点での教訓を踏まえ、ポストコロナ時代に期待される高大接続のあり方を論じる。		